

はじめに

北陸先端科学技術大学院大学（以下、北陸先端大と略します）では、伝統工芸を活用して地域の活性化を企画立案し、牽引する人材を「伝統工芸イノベータ」と呼び、そのような人材を養成する石川伝統工芸イノベータ養成ユニットという名称の事業（以下、伝統工芸イノベータ事業と略します）を推進しています。

伝統工芸イノベータ事業では、2007 年度から 2011 年度までの5年間で、石川県、能美市、加賀市や九谷焼、山中漆器の産地組合など各機関と連携し、教育内容の整備、教育体系の構築、修了生が活躍できる環境整備を進めています。

2010 年 3 月末時点で 3 コースを合わせて、延べ 141 名の修了生が育っています。

本書は、「伝統工芸イノベータ」になってみたい方々を対象にしており、想定する読者は、1) 職人、産地問屋、小売業といった伝統工芸産業に従事している方々、2) 伝統工芸と連携して商品・サービスの開発をしたい異業種の事業者の方々、3) 自治体で伝統工芸産業を振興する部署に勤めている方々、そして、4) 伝統工芸に関心があって何らかの形で応援したいと考えている方々です。

本書の目的は、「伝統工芸イノベータ」になってみたい方々の入り口として、「伝統工芸イノベータ」が考えなくてはならないことやそのために必要な知識、スキルのエッセンスを読者のみなさんに伝えることです。

「伝統工芸イノベータ」とは聞きなれないことばだと思います。この事業で新たに用いた造語で、これまでは世のなかにありませんでした。

イノベータ (innovator) とはイノベーション (innovation) を起こす人のことです。イノベーションの語源は、ラテン語の “innovare” (新たに作る) であり、“in” (内部へ) + “novare” (変化させる) という語から構成されています。すなわち、「ものごとを新たに作る人」、転じて「革新する人」、「刷新する人」を意味します。

イノベーションの訳語は日本では長らく「技術革新」ということばが当てられてきました。それゆえ、このことばは科学・技術の分野での発見や発明、新しい製造方法の開発を意味することが多かったように思います。しかし、社会イノベーションということばがあるように、現在では社会、経済の仕組みを変革することまでを含む広い意味を持ったイノベーション観が生まれています。

伝統工芸を活用して物事や仕組みを新しく変えていく人たち。でも、ただ変えるだけではイノベータとは呼びません。変えたときに新たな価値が創造されている必要があります。新しい価値とは、例えば、より優れた商品を開発して消費者の満足度を高めたり、世のなかにはなかった新しい仕組みをつくって、これまで不可能だったことを可能にしたりすることです。何をどのように変えていかなければならないのでしょうか。それを考えることこそが伝統工芸イノベータの役割です。一緒に考えていきませんか。教室でお会いできることを楽しみにしています。

北陸先端科学技術大学院大学
知識科学研究科 特任准教授
石川伝統工芸イノベータ養成ユニット
事業推進事務局長

緒 方 三 郎

目 次

はじめに

第1章 伝統工芸MOTとは何か	1
1－1. 伝統工芸産地の状況	1
1－2. 伝統工芸イノベータの課題	4
1－3. 伝統工芸イノベータになるための3つのコース	5
1－4. MOT	9
1－5. 伝統工芸MOT	14
第2章 伝統工芸の市場を考える	17
2－1. 見直される和の伝統	17
2－2. 伝統工芸品を探す	18
2－3. 「伝統工芸」概念を考える	20
第3章 商品企画とマーケティング	23
3－1. 伝統工芸と商流、商品カテゴリ	23
3－2. マーケティング	26
3－3. 伝統工芸の商品企画	28
第4章 先端科学技術を活用する	30
4－1. 先端科学技術を使うということ	30
4－2. 株式会社錦山窯の活用事例	33

第5章 産地振興を考える	35
5－1. 伝統工芸産地の振興	35
5－2. 能美市の九谷焼産地振興への取り組み	36
5－3. 加賀市の山中漆器産地振興への取り組み	39
5－4. 九谷塾の活動事例	42
第6章 自分の考えをまとめる	51
6－1. 知識よりも大切なこと	51
6－2. 四画面思考法とは	53
第7章 商品開発事例	58
7－1. 異業種の才能が出会う場	58
7－2. いしかわメモリ	59
7－3. まいちょこ	63
あとながき	68